

令和3年度 第1回鹿児島市環境審議会 会議概要

【日 時】

令和3年7月28日（水） 13時30分～15時15分

【場 所】

市役所東別館9階 特別中会議室

【出席委員】

有山委員、伊荻委員、江口委員、長船委員、川原委員、諏訪委員、徳留委員、
富安委員、西園委員、二宮委員、丸山委員、三原委員、宮本委員、森田委員

【会 次 第】

- 1 開会
- 2 報告
- 3 議題 素案原案について
(関連計画)
① 第三次環境基本計画 ② ゼロカーボンシティかごしま推進計画（仮称）
③ 再生可能エネルギー活用計画（仮称） ④ 次期生物多様性地域戦略
- 4 その他
- 5 閉会

【議事概要】

<3 ① 第三次環境基本計画>

委 員：「計画で目指すもの」について、イラストで表現し、とても親しみやすく興味を持って見ていただけるものと感じたが、2点意見がある。1点目は、イラストとその前段の説明文とのつながりがわかりにくい。2点目は、各イラストの説明文中の聞きなれない言葉がわかりにくく感じた。中学生が読んでもわかるような内容にしていきたい。

事務局：1点目については、分類の仕方も含め、よりわかりやすくできないか検討する。2点目についても、分かり易い言葉選びや注釈などの工夫をしてみたいと思う。

委 員：「かごしま生きものラボ」の活用が数値目標とされているが、どのような活用を目指されているのか。

事務局：「かごしま生きものラボ」については、小学生向けの理科や社会の授業等で活用していただくために作成している。まだ手を入れなければならないところがあるため、教育委員会と連携を図りながら、利用しやすいものとなるよう検討する。

<3 ② ゼロカーボンシティかごしま推進計画（仮称）>

委 員：県内にある大規模な太陽光発電所で発電された電気は、ほぼすべてが域外に出ている状況は間違いない。できれば県内で自社の屋根に太陽光パネルをつけて、自家消費ができるような啓発を進めていくのがCO₂削減には一番寄与していると思う。また、CO₂排出量が一番多いのは運輸部門だと思う。数年の間には、バイオマスを主体とした液体の燃料が使われる。こういった燃料を鹿児島市であれば桜島フェリーで使えると思う。計画期間の10年の間に情勢の変化があれば、見直しの機会にこのような内容も入れていただきたい。

事務局：自家消費を中心に、市内で生み出したエネルギーを市内で使うということは私どもも思いを同じくしているところであり、その実現に向けて、計画を実行に移す中で動いていきたい。また、新しい燃料の活用については、国が検討しており、例えば、ミドリムシなどの藻類からエネルギーを作ろうとしている。このような世の中の動向をとらえながら、可能な働きかけをしていきたい。

< 2 ② 再生可能エネルギー活用計画（仮称） >

委員：再生可能エネルギーの地産地消は、是非推進していただきたい。ただし、市内の再生可能エネルギー利用可能量は、市内の需要量を下回っているため、市内における再生可能エネルギーを最大限有効活用することに加え、地域外からのゼロカーボンエネルギーの導入が不可欠となっている。そうすると再生可能エネルギーをつくれる農村部にエネルギー供給の負荷がかかるとことを懸念している。生物多様性や森林の保全など、自然への負荷と再生可能エネルギー導入のバランスを考えることは、行政にしかできない。地産地消をどういう範囲で行うのか、検討いただければと思う。

事務局：ご指摘のように、国の再生可能エネルギーに関する都市部と農村部の考え方があり、鹿児島市については、計画に記載のとおり再生可能エネルギーが不足している。電気に関しては、地産地消を踏まえた上で、いわゆるゼロカーボン電力を市民や事業者と契約してもらうことが、市外からゼロカーボン電力を持ってくるという代表的なやり方になるかと思う。この結果として、どこかの農村や漁村から作った電気となるかもしれないが、広いエリアの中で融通するというイメージになると思う。国は、国全体として再生可能エネルギーは十分にあり、それをしっかりと発電することが大切だというふうにしており、まずは、しっかり市域外から持ってくるという考え方を整理したい。